

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.20

連載「日本労働会館物語」第 17 回 2010.10.15 発行の第 19 号に掲載

### 2. 2024 年 友愛会創立を記念する会(創立 112 周年) 119 名の参加

### 3. 出張講演・UA ゼンセン流通部門・伝承塾「惟一塾」(逢見直人塾長) 16 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.20

連載「日本労働会館物語」第 17 回 2010.10.15 発行の第 19 号に掲載

連載 「日本労働会館物語」第 17 回！

#### <惟一館献堂式—久米邦武・福澤諭吉らが祝辞>

明治 27(1893)年 3 月 25 日、惟一館(現友愛会館)の献堂式が行われました。記念式典では久米邦武、福澤諭吉らがスピーチし、また祝辞を寄せています(『惟一館献堂式の記録』)。



先ずユニテリアン協会を代表しマッコレーイ牧師が「惟一館献堂式全体報告」を行い、神田佐一郎(ユニテリアン協会)が「歓迎あいさつ」。この

の後、来賓の横井時雄(同志社総長、父は横井小南)が「日本の若者の責務」、久米邦武(帝大教授、『米欧回覧実記』編者)が「宗教と歴史の関係」と題したスピーチを行っています。また、福澤諭吉(教育者)が「現代の道德の必要性」、中西牛(宗教思想家)が「ユニテリアンと仏教の関係」と題する祝辞を寄せています。

クリスチャンの横井時雄は、「もし人の徳性が低く、不純で誠意がなければ、深い洞察力を得ることは、とうてい不可能です。徳性という媒体によって、私たちは知性を開放して実存の深い真理を受け入れることができるのです。このホール(惟一館)は、必要な二つのもの、知識と道德的生き方の両方を満たすために建てられた」とスピーチしました。

歴史家の久米邦武は、「このホールは、過去への追従とは無関係の宗教研究のために建てられました。迷信の時代はまだ完全に過ぎ去ってはいません。私は、皆さんが真剣に真理を探究してくれることを、また人類の歴史において、あなた方の役に立つであろう全ての助力者に呼びかけることを、そしてあなた

方の努力で、どんなものであれ真理を出来る限り広くもたらしてくれることを、心から希望します」と、そのスピーチを結んでいます。

慶応義塾の福澤諭吉は、「我々は三つの宗教を持ってきました。神道、儒教、仏教です。近年は、西洋からキリスト教がもたらされました。これらの信仰はそれぞれ独自の価値を持ってしかるべきであります。私はどの宗教に対しても、批判をしたことは一度もありません。それぞれの道徳律は同じであるべきだと思うからであります。即ち、善は善であり、悪は悪だからです。私はいずれの宗教に対しても公平な姿勢を保ってきましたし、それぞれの繁栄を期待してきました。これら全ての宗教が教えている人生の教訓を実践しようと努めており、そのことが私の周囲の人々の助けになるであろうと思っています。目から得た教訓は、耳から得た教訓より優っているというのが、私の好む信念です。実践された徳は多くの議論よりはるかに力強いものであります。議論ではなくむしろ実践こそが世界を変えるのです」と述べています。

仏教徒の中西牛郎は、「私が信仰している仏教は、基本的にユニテリアン主義と類似しています。釈迦は、自分の教えは良心と理性に従った後に受け入れるべきだと言っています」と述べ、さらに「これら仏教の三つの階級において、多神論から汎進論へ、汎神論から一神論へと、宗教の形の進化が見られます。もし今、ユニテリアン主義が、全ての存在は仏陀となる、または結局は仏陀と同様のものになる、宇宙の進化はキリストにおいて完成する、宇宙の無秩序はキリストにおいて調和するなどの考え方を支持するならば、私たちは名称の違い以外に、ユニテリアン主義と仏教との本質的な差異がわかるのでしょうか。私は長い間、チャニングやエマソンを、著作を通じて崇敬してきました。日本のユニテリアン代表の方たちが、そうした尊敬に値する教師たちに続かならば、日本のユニテリアン主義は測り知れないほど有効なものとなるでしょう。ユニテリアン主義は研究の自由を、信条のひとつに掲げています。したがって、信奉者の方々が、私たちのあらゆる宗教の形、神道、儒教、仏教を公平に研究することによって、唯一の偉大な真理のもと、私たちが最終的に一つになることを念願しています」と祝辞を寄せています。

これらに答えマッコレー牧師は、惟一館建設の目的を述べた後、先進学院に言及しつつ「理想的な真理を求め、それを人生に適用するという高い目標を持って、先進学院はその影響力の及ぶ限り、この国において生氣ある信仰と生命の源となることでしょう。祈りと希望を持って、この美しい建物の建設を可能にしてくれた、多くの方々の名において、今日、惟一館を“真理、正義、平和”のために捧げ、またこれからは、日本の人々のために捧げます」と挨拶しています。（連載第17回終り、文責・間宮悠紀雄）

## 2. 2024年 友愛会創立を記念する会(創立112周年) 119名の参加

「友愛会創立を記念する会」(高倉明 会長。労働組合14組織、一般財団法人日本労働会館、株式会社友愛会館、労働運動関係者で構成)は、8月1日の11時、友愛会館ホールで記念式典を開催しました。119名の参加者を集め、式典では、この1年の物故者の紹介と黙祷をささげ、主催者を代表して松浦昭彦副会長の挨拶の後、連合・芳野友子 会長、民社協会・川合孝典 代表、政研フォーラム・谷口洋志 理事長のご来賓より挨拶を受けました。

友愛会は112年前の1912(大正元)年8月1日、鈴木文治がユニテリアン教会・惟一館(現・友愛会館)で結成した中央労働団体で、その後、総同盟(戦前)へと発展。戦後、総同盟として再建され、同盟を経て現在の連合(日本労働組合総連合会、芳野友子会長)へと発展しています。



「友愛会創立を記念する会」は、この日本労働運動の出発点、そして民主的労働運動の源流とも言うべき友愛会創立の意義を顕彰し、そのメッセージを語り継ぐための会。会員相互の親睦と労働運動の発展に資するため毎年8月1日、連合の後援を受け、記念式典と懇親会を

開催しています。今年は、昨年に続き、講演会を中止し懇親会を重視しました。総員119名の参加者は久しぶりの再会を喜んでいる様子でした。

## 3. 出張講演・UA ゼンセン流通部門・伝承塾「惟一塾」(逢見直人塾長) 16名

8月27日(火) UA ゼンセン・流通部門「第四期 惟一塾」の要請により、藤吉館長が出張講演をしました。演題は「次世代に期待すること」。内容の要点は、産業別労働組合の役割と責任、流通労働組合の位置づけ、労働運動と政治、私たちの労働運動思想、同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、生産性経営への転換をどう図るか、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。など二泊三日で若い塾生たちと膝を交えて、飲み、語り、話し合い、大変中身の濃い時間を過ごしました。参加者の皆様の熱心な姿に、明るい未来を感じました。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairedokishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairedokishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から130年、友愛会から112年